

2010年の都道府県別生命表が公表されました！ ～沖縄県男性は25位から30位に、女性も首位から3位に転落～

生命表は、ある人口集団の死亡状況が今後変化しないと仮定したときに、各年齢の者が平均してあと何年生きられるかという平均余命などの指標（生命関数）によって表したもので、0歳の平均余命のことを「平均寿命」といいます。「平均寿命」は、健康福祉水準を総合的に示す重要な指標であり、都道府県別生命表は、人口動態統計調査及び国勢調査のデータを用いて5年ごとに作成されています。平成25年2月28日、2010年の都道府県別生命表が公表されました。

→厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/tdfk10/index.html>

都道府県別平均寿命については、大正10-14年からデータがあり（表1）、沖縄県は男性が2位（46.32歳）、女性が1位（50.53歳）と当時から長寿で、1980年、1985年には男女とも1位を達成、1995年には世界長寿地域宣言をしました。しかし、2000年に男性が4位から26位へと大きく順位を落としたことは26ショックと呼ばれ、長寿県の維持継承に危機感を持つようになりましたが、女性は首位を保っていました。今回公表された2010年の平均寿命では、男女とも長野県が1位、沖縄県は男性が30位（79.41歳）と大きく後退、女性も3位（87.02歳）となりました。

沖縄県は、男女とも1990年代から平均寿命の伸びが鈍化しており、男性は2000年から全国を下回るようになりました。女性は2005年から2010年までの寿命の伸びがわずか0.14歳となっており、

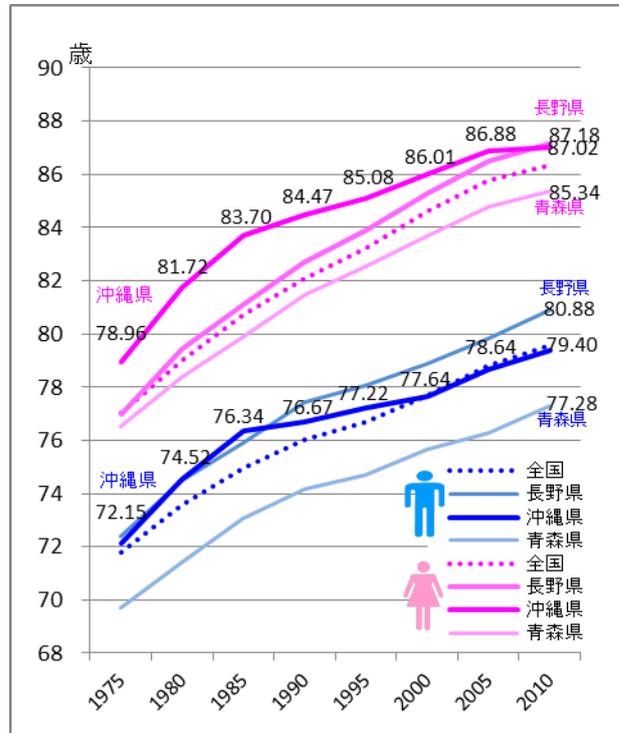


図1. 平均寿命の推移（沖縄県、長野県、青森県）マイナスに転じた鳥取県（-0.19歳）に次いで寿命の伸びが小さいことから、今後さらに順位を下げるのが懸念されます（図1）。平均寿命の伸びを大きくして、都道府県別平均寿命の順位を長野県のように男女とも全国トップ水準まで引き上げるには、長期的な取り組みが必要です。健康長寿の復活を目指して、県民一人一人が健康づくりに取り組みましょう。

→健康おきなわ21ホームページ

<http://www.kenko-okinawa21.jp/>

【企画管理班】

表1. 都道府県別平均寿命の推移

		大正10	大正15	昭和10			平成2		7		12		17		22
		～14年 1925	～昭和5 1930	～11 1935	50	55	60	平成2	7	12	17	22			
男	全 国	42.06	44.82	46.92	71.79	73.57	74.95	76.04	76.70	77.71	78.79	79.59			
	沖縄県	46.32	45.97	47.24	72.15	74.52	76.34	76.67	77.22	77.64	78.64	79.40			
	(順位)	2	15	15	10	1	1	5	4	26	25	30			
	長野県	45.36	48.24	49.51	72.40	74.50	75.91	77.44	78.08	78.90	79.84	80.88			
	(順位)	5	2	1	4	3	2	1	1	1	1	1			
女	全 国	43.20	46.54	49.63	77.01	79.00	80.75	82.07	83.22	84.62	85.75	86.35			
	沖縄県	50.53	50.47	51.78	78.96	81.72	83.70	84.47	85.08	86.01	86.88	87.02			
	(順位)	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	3			
	長野県	46.70	50.12	51.80	77.00	79.44	81.13	82.71	83.89	85.31	86.48	87.18			
	(順位)	6	3	1	16	9	9	4	4	3	5	1			
青森県	39.94	43.22	46.27	76.50	78.39	79.90	81.49	82.51	83.69	84.80	85.34				
(順位)	41	44	42	35	43	46	45	46	47	47	47				

* 沖縄県は1945～1970年までデータなし